

武備目録

完

C2108
9

京都大学
附属図書館
大川
139

大川家
139



もろくは病に罹りて 危急の法を語 敵を授けり 曰く人壽
限り有り 今何し 警へ事や 人恨らるゝ 此の書のゆゑと
表向ふ事と 授け給ふ事 前の人をみよ 此の書に受て
急に 結言して 一度 撰ん 未だの電報に 供へ 事を欲し 而
友人の意 接目 ぐい 西の 役 用て 見 授英 命 して 代 して
名 曰く 世に 武事と 傳有 多く 伝 弱き され 此の 體に して 法 然
時 死を 懼る 故に 進む 處 して 進み あり こと 此 邦 義 こと 常 然
之 死を 懼る 故に 侵す 處 して 侵し 殺す 處 して 殺す こと 常 然
則 禮を 背け 不仁 不義 不禮 不義 人の 通 ぬり 此 授 英
の 國 然る こと 法 則 こと あり こと 書 成る 武 備 目 録 名 已 ぬ
轉 劍 氏 事 病 勢 漸 減 枯 槁 春 を 回 さん 此 豈 法 然 事 佐 と 蒙
る こと あり こと 事 あり 事 金 命 日 相 長 再 授 英 經 あり 此 確 儀 傳 至
當 事 して 止 さん 此 國 あり こと 事 あり こと 記 あり こと 知 あり こと 事 あり
元 文 己 未 の こと 仲 夏 の 日 下 谷 散 人 松 官 俊 仍 識

武備目録卷上目録

- 一 供養と時變ありて心得る事
- 一 自今他日と事變有るに心得る事
- 附註の心得る事
- 一 使者相勸ふ事變有る心得る事
- 一 取次役相勸ふ事變有る心得る事
- 一 隣家と事變有る時の心得る事

同卷下目録

- 一 當所法所と事變ありて時の心得る事
- 一 取次役と事變有る時の心得る事
- 一 變死ありて授英可勸むる心得る事

この何れの例に依り小廣く是に依り小旅遊るなりとも
 数事も多し一ち小一野心多しなりと望むとも我は已に思ふ
 らむとある事有り有るを用ひて武飯も表向中も思ふなり
 是より多し小廣くはなを主派なりと成るなり此の儀式より目立
 たるなりと論ぶる事多しとあり一ち有るなり其州に於ては
 御り武の心付ありとあり

登 誠武を湯屋若年所門前探入留ひ合所にて高より合て喧
 嘩は痛むる事あるなりわてつた人合にて妻はせざるは恥といふ
 も有く武人忠誠を人より早く世に人より疎かに
 仕合ぬる事あるなりわてつた人合にて福とて事有く
 不意なる事あるなり

主人中ふ後人の各所より人をよけし、実とまゐるものあり
 といふ表を當りて裏成なりとの當証なりといふを當りともいふ

昔々、
次、
実、
江、
流、
瑞、
如、
小、
本ノ一カ
一、
之、
取、
手、
物、
一、

一 之筆或は虎印元也猶ほんや中一居如ひぬるにふき類有るもの
 小や有人鑑を名く述たり鑑持の油印のりて来れりるれも
 世とふ沙汰有りて通るふきまうてを是非と人切腹とてしきり
 もあつてそのうていあうてはむし一武部武義の今事な
 けり一高崎と鑑を拍まぶる人の陰は密なる物哉と有て或はぬ
 けり事有る鑑を名く白じたり人小自身持る。陰を相とてぬ
 けり。小は鑑持とてぬ。小きひともぬ。如ぬ陰を拍まぶる。世ふりて
 たり。やう。一。事。小。や。有。り

或人問曰、繪持の油のやうなものを、自分かへしうと云ふは、
 一、信方や、北條が城を奪つた時、流石の足利
 公も、城を捨てて逃げたやうと評し、信方人ひと怒り、武勇不
 法、中々、足利公の討死、城を奪つた後、北條の城を奪つた

一 逢ひしより久し口を接する事ありきも又不接なり通て
 抱く所一仔細に所し小まをて愛を有しき物にけりある人
 功なりとて供事の有きを指し所の辻處（相済）無きなりは
 口を接する事急なり是より表示酒に氣遠ひるなりは尚ほ口接する有
 きもあらず但れに極く不接なるのわに人別れの手なり
 一 重傷の湯に敷く人小服に於て通るなり人けり集るなり
 入銘の供事と別通するなりと陸軍の多かりなり

徳の心こそ嘆嘆はたふ事しつゝ身はぬり外も悔ぬもの一人歟
 らへ返え「残存の者の心は之れ新の湯へ合ふ凡の心は小はせ道
 返仕せりよりふ」之を俄に前後相違りて其様行りしより
 一相違りぬるもさうあるに及ば（波逆あり）
 成るもさうあるに及ば（波逆あり）
 ありむは及ぶものも徳への意ありひきり知りたるものも湯へ入る者
 ありむは及ぶものも徳への意ありひきり知りたるものも湯へ入る者

[illegible][illegible]

身も心も能く仕へるは、何れも又、
法に下るを相とて、
為に持たふ。一、
深く進まず、
呼ぶ。一、
さう。一、
番。一、
付。一、
す。一、
られ。一、
より。一、
下。一、
而。一、

情。一、
一。一、
さ。一、
は。一、
い。一、
忠。一、
一。一、
有。一、
あ。一、
人。一、
そ。一、
之。一、
現。一、

中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ

付とありし日而も朋友を付けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ
中一と書かば又ある事一と改入名の中一は
其の事けりしと知れ極まで附けられ

昔文政十三庚子仲秋
石村之信以所藏原本
騰寫

閑齋記



